

## 消費者に大人気！ブドウ「シャインマスカット」 の特性と栽培技術

高品質な「シャインマスカット」作りを目指して



「シャインマスカット」は旧独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所が育成し、平成18年に品種登録されました。糖度が高く、酸味が少ないことに加え、皮ごと美味しく食べられることから、消費者の人气が高く、本県を含め全国に導入が進んでいます。

そこで、本県における無核「シャインマスカット」の栽培方法を標準化するため、これまでの試験から得られた知見をもとに、果実の生産目標と栽培指標を設定し、消費者に好まれる高品質な「シャインマスカット」の栽培技術をまとめました。

## 品種の概要

### 育成者

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所

### 交配親

「安芸津21号(スチューベン×マスカット・オブ・アレキサンドリア)」×「白南」

### 果実の特徴

- 果皮色は緑色～黄緑色で、皮ごと食べられる。
- 糖度が高く、酸味が少ない。マスカットの香りがある。
- 無核化した果実の成熟期は8月中旬で、無核「巨峰」とほぼ同時期か、やや遅い。
- 樹上の日持ちは無核「巨峰」よりやや長い。

### 栽培上の特性

- 樹勢は「巨峰」より強い。
- 発芽率や花穂の着生数は「巨峰」と同等。
- ジベレリンによる無核処理では、「巨峰」より種が残りやすい。

## 無核「シャインマスカット」における果実の生産目標と栽培指標

### 果実の生産目標

果粒重	12～14g
1房粒数	35～40粒
1房重量	450～500g
10a当たり着房数	3,000房
10a当たり収量	1,500kg
果実糖度	18%以上

### 栽培指標

結果母枝数	3～4本/m <sup>2</sup>	
結果母枝の切り返し	4～8節(中梢せん定)	
新梢本数	6～7本/m <sup>2</sup>	
新梢長	開花直前	120～150cm(13～15節)
	収穫直前	150～200cm(15～20節)
葉面積指数(収穫直前)	2.5～3.0(副梢の葉を含む)	

# 栽培管理のポイント

## 整枝、せん定

- 作業の効率化には、平行整枝が有利である。一文字又はX字型自然整枝でも問題ない。
- 新梢の生育がおう盛なため、中梢せん定が適している。短梢せん定では花穂の奇形が多くなる。
- 生育が強い一年枝は8節程度、中庸なものは4~6節で切り返して結果母枝とする。弱いものは2節で切り返し、翌年の結果母枝を得るための予備枝とする。

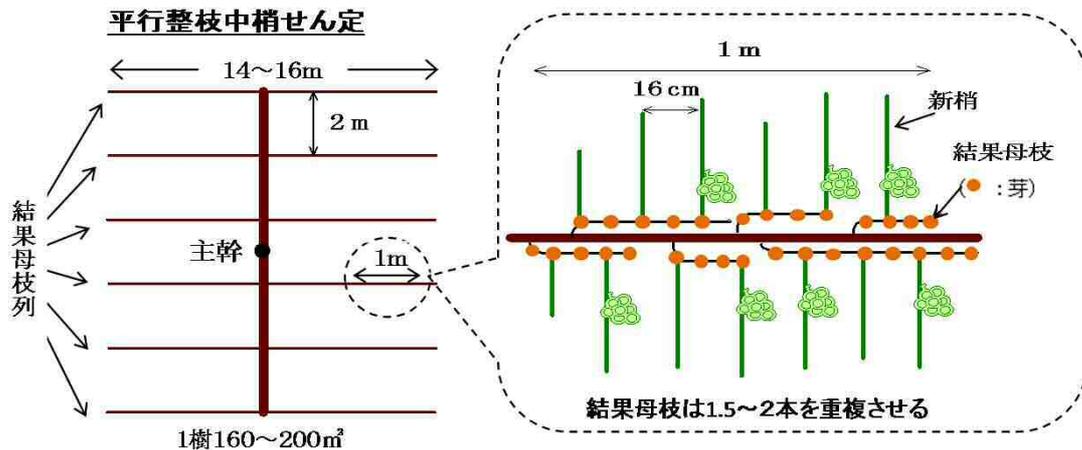


図1 平行整枝中梢せん定の模式図

## 花穂の整形

- 開花1週間前から開花始めまでに実施。1新梢につき1花穂とした後に整形する。
- 縦長で円筒形の果房にするため、花穂の先端部約3cmを利用する(図2)。
- 花穂の奇形が軽微な場合、図3のように対処する。やむをえず副穂や上部の支梗を利用する場合、果粒肥大が悪いこと、向きによってはジベレリン処理が難しいこと、開花期(ジベレリン処理適期)がずれることなどに留意する。

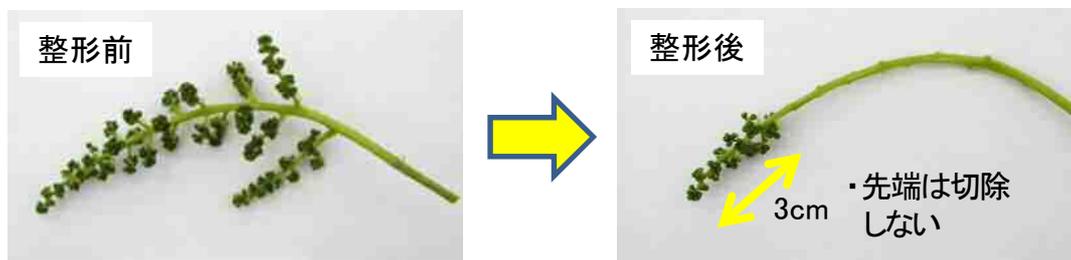


図2 正常な花穂の整形方法



図3 奇形の花穂に対する対処法

## ジベレリンを利用した無核化処理

○「巨峰」より種が残りやすいので、満開予定日の14日前から開花直前までに、ストレプトマイシンを散布する。

○「シャインマスカット」の無核化には、次のとおり、ジベレリン2回処理と1回処理の二つの方法がある。

① **ジベレリン2回処理法**

- ・満開3日後に、1回目を行う。
- ・満開10日～15日後に、2回目を行う。

② **ジベレリン1回処理法**

- ・満開5日後に、フルメット10ppmを加用して行う。

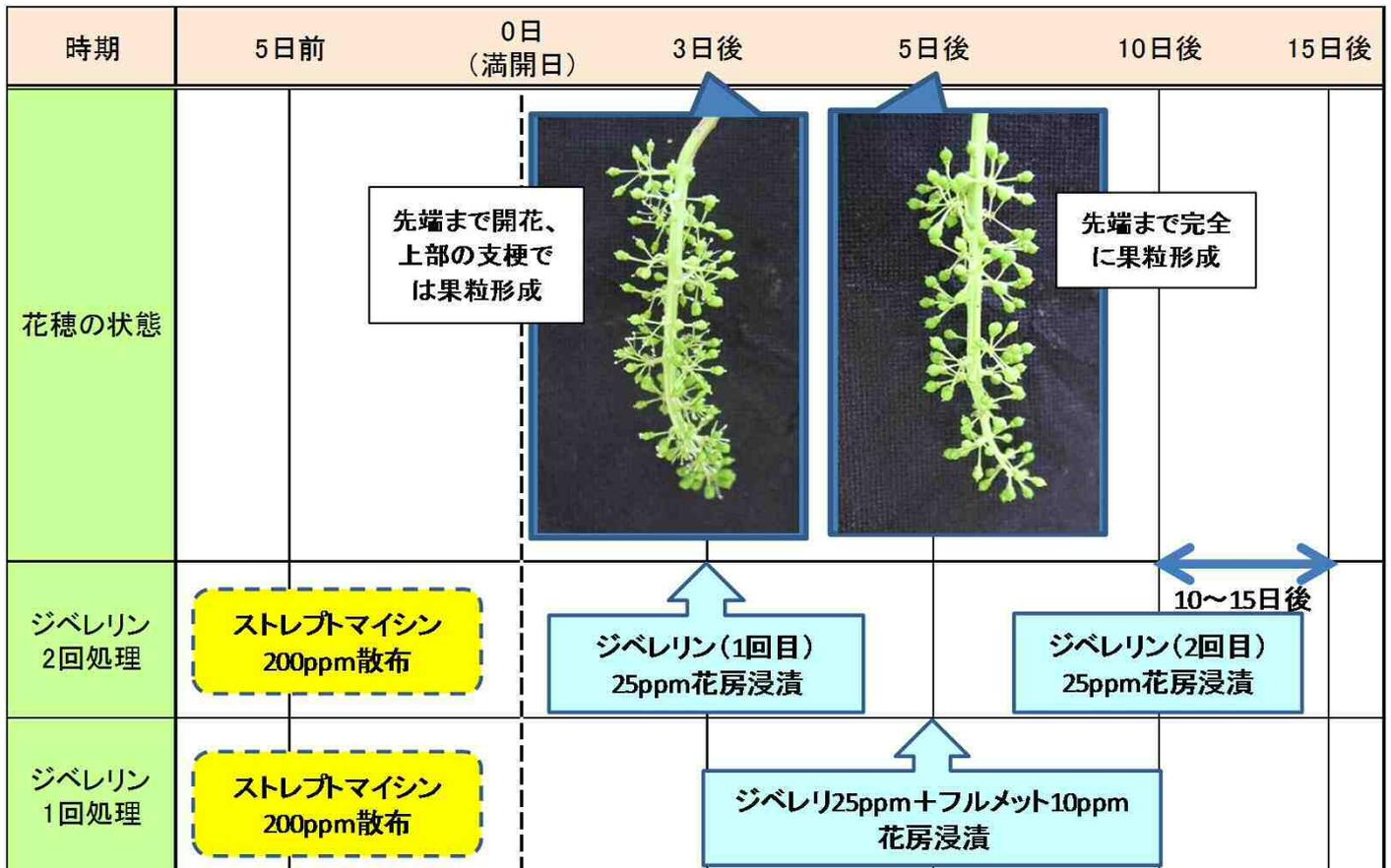


図4 花穂の状態と無核化方法

## ジベレリンによる無核化処理法ごとの果房・果粒の特徴及び注意点

無核化処理	果房・果粒の特徴及び注意点
ジベレリン 2回処理法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目処理を満開時に行うと、ショットベリーの着生が多くなり、穂軸が湾曲しやすい。</li> <li>・1回目の処理が遅れた場合、着粒が不安定になる。</li> <li>・2回目の処理が遅れた場合、果粒肥大は良好になるが、食味(糖度)が低下する。</li> </ul>
ジベレリン 1回処理法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2回処理法と比べ、果粒は球形になり、穂軸及び支梗の伸長が劣るため、密着果房となりやすい。</li> <li>・2回処理法と比べ、果粒肥大がやや劣るため、早期に摘粒作業を行う。</li> </ul>



左: GA2回処理法の果粒  
右: GA1回処理法の果粒

GA2回処理法  
1回目満開時

GA2回処理法  
1回目満開3日後

GA2回処理法  
1回目満開5日後

GA1回処理法

図5 ジベレリン(GA)処理方法の違いと果粒、果房の形

## 摘房・摘粒

- 1回目の摘房は満開7日後から2週間後までに行う。果房の形や着粒の悪い房を中心に摘房し、目標着房数の10~20%程度を余分に残す。
- 2回目の摘房は、満開2週間後に行う。生育の劣る(弱い)新梢の果房、形や着粒状況の劣る果房を落とし、目標着房数に調整する。
- 予備摘粒は、ジベレリン2回処理法では2回目の処理までに、1回処理法では処理後5~7日の間に行う。目標果房重(450~500g)とするため、この時点の軸長が4.5~5cmになるよう、房の大きさを整える。
- 仕上げ摘粒は、2回目の摘房後から開始し、できるだけ早く完了する。図6を参考に、目標とする果房重、果粒数及び房形になるよう摘粒を行う。

### 摘粒の目安

- ・1房重量の目標: 450~500g
- ・1房粒数: 35~40粒
- ・穂軸の長さ: 8~9cm
- ・支梗数: 10~12段
- ・摘粒する果粒:
  - ①生育不良な果粒
  - ②外側へ飛び出している果粒
  - ③内側にもぐっている果粒
  - ④果房中段の上、下向きの果粒

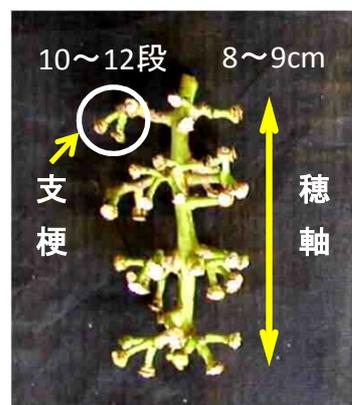


図6 収穫時の穂軸

## かすり症対策

- かすり症は、果皮色が緑から黄緑に変化する頃から見られ始め、黄化の進行に伴い増加する。若木での発生が多い。
- 外観を重視するなら、果皮色が黄緑になる頃に収穫を終える。
- 着果過多の場合、糖度の上昇が鈍く収穫時期が遅れるため症状が悪化する。適正着房数の遵守が重要。
- 緑色袋の使用が果皮の黄化抑制に効果的。かすり症の発生が軽減される(図8)。



図7 かすり症の発生状況

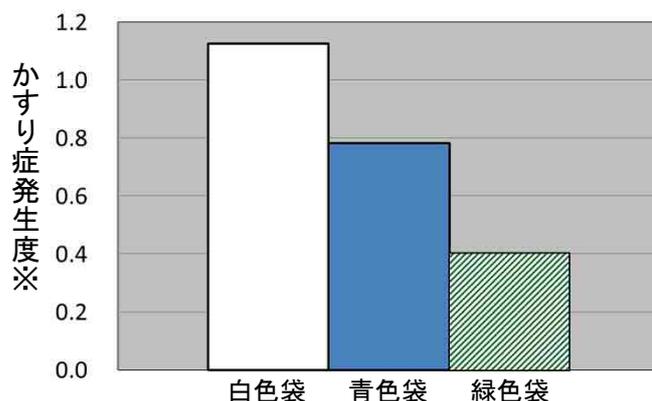


図8 着色袋の使用がかすり症の発生に及ぼす影響  
※かすり症発生度は、無=0、少=1、中=2、甚=3とした。

## 病害虫防除

- 「巨峰」と比較して、黒とう病(図9)に弱く、べと病にはやや弱い。晩腐病に対してはほぼ同等である。
- 農薬による防除は「巨峰」と同じ防除体系でよいが、5月中旬から黒とう病の発生に注意する。
- 万一発生が見られたら、発生初期のうちに黒とう病に治療効果のある薬剤を追加して防除する。



図9 新梢先端に発生した黒とう病

編集・発行 愛知県農業総合試験場  
〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1  
TEL 0561-62-0085 内線323 (企画普及部)  
FAX 0561-63-0815 <http://www.pref.aichi.jp/nososi>

問い合わせ 園芸研究部落葉果樹研究室  
TEL 0561-62-0085 内線334